

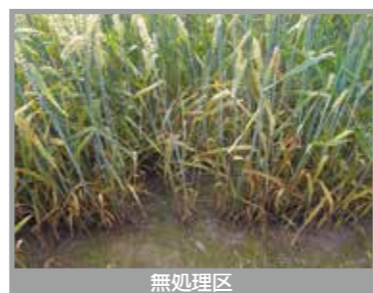
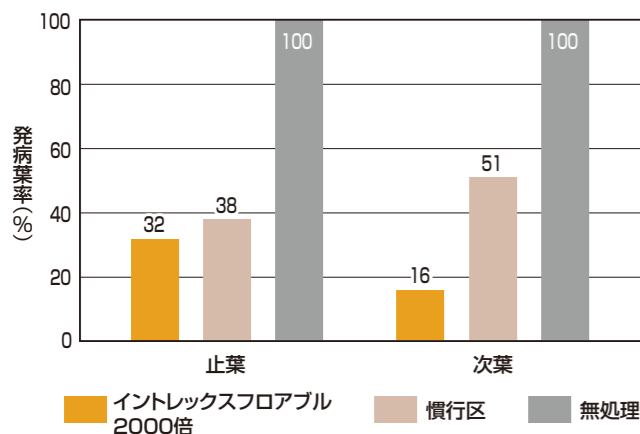
新規有効成分が、小麦の赤さび病に、安定的な効果を示します。

優れた予防効果と治療的効果

優れた残効性

優れた移行性

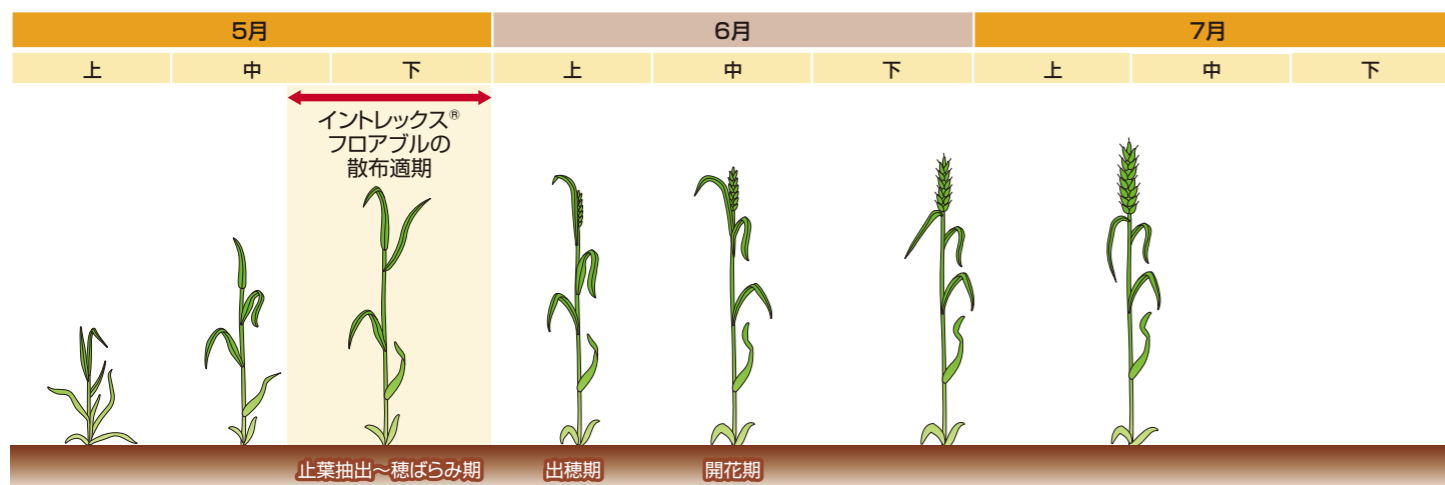
## 小麦 赤さび病の試験事例



試験年次：2019年  
試験機関：社内試験(北海道北見市)  
品種：きたほなみ  
試験区：1区10㎡ 2反復  
発病度：甚発生  
散布水量：100ℓ/10a

散布日：イントレックスフロアブル区：5月30日(穂ばらみ期～出穂始)に1回のみ散布しその後無防除とした  
慣行区：5月31日A剤1000倍、6月4日B剤2000倍、6月12日C剤1000倍を各散布  
調査日：7月12日

## イントレックス®フロアブルの赤さび病の散布適期



## 適用病害と使用方法(小麦のみ抜粋) ※その他、ばれいしょ、てんさいにも登録があります。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルキサピロキサドを含む農薬の総使用回数
小麦	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	1000～1500倍	60～150ℓ/10a	根雪前	4回以内	散布	4回以内 (融雪後は3回以内)
	赤さび病	2000倍		収穫 7日前まで	3回以内		
	赤かび病	1000倍					

### △効果・薬害等の注意

- 使用に当たっては容器をよく振ってください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調整の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

### △安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は農場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2021年1月の知見に基づいて作成されています。

**BASFジャパン株式会社**

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階  
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp>

BASF-0221  
202101



**BASF**  
We create chemistry

user's voice

殺菌剤

# イントレックス® フロアブル

## 小麦の赤さび病に 安定的な効果



©=BASF社の登録商標

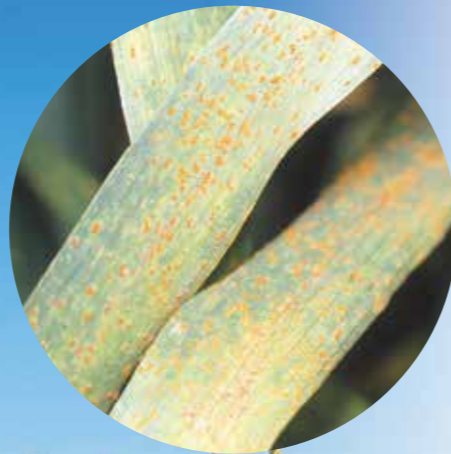


## 北海道の小麦生産者の皆様へ

イントレックス<sup>®</sup>フロアブルはBASF社によって開発されたピラゾール-4-カルボキサミド系の新規有効成分ゼミウム<sup>®</sup>（成分名：フルキサピロキサド、FRACコード7）を配合した新規殺菌剤です。

2011年より（一社）北海道植物防疫協会および（一社）日本植物防疫協会を通し各地の農業試験機関で委託試験が実施され、優れた防除効果が確認されました。特に、近年道内で問題となっている小麦の赤さび病に対し、優れた残効性と安定的な効果が期待されています。BASFジャパン株式会社は、2020年にイントレックス<sup>®</sup>フロアブルを小麦の赤さび病にご使用いただいた方に取材を行い、本冊子にご感想をまとめました。皆様のこれからの赤さび病防除の一助となれば幸いです。

2021年 BASFジャパン株式会社



小麦 赤さび病



## イントレックスフロアブルを散布した今年も赤さび病の発生は見られませんでした

空知郡南富良野町  
鈴木 正良 様(62歳)

**プロフィール**  
●1988年に実家の農業を継ぐために就農  
●主な栽培作物：小麦(13ha)、大麦(16ha)、ばれいしょ(11ha)、にんじん(30ha)  
●小麦の栽培品種：きたほなみ



頃に赤さび病の発生が目立つようになりました。赤さび病が収量に影響するという認識はありませんでしたが、勉強会等で、「赤さび病もひどくなると減収する」ということを知り、防除への意識が高まりました。

### イントレックスフロアブルの効果

JAで赤さび病に効果のある薬剤と紹介を受けたのがイントレックスフロアブルでした。ラジオのCMでも流れていたので興味もあり、今年初めて使ってみました。散布時期は赤さび病防除の前、5月下旬の止葉抽出期です。結果、葉や茎への発病も見られず、効果はあったという印象です。小麦の品質や収量維持のためにも、今後もイントレックスフロアブルでの防除は続けていこうと思います。



**取材メモ** 「富良野は様々な作物が獲れ、どれもおいしいですよ」と話す鈴木さん。JAふらのにんじん部会の役員を務め、ご自身は30haの面積でにんじんを栽培されています。お勤めは富良野産のにんじんを使用したジュース「富良野のにんじん100」。「すっきりとした甘さで飲みやすく、体にとてもいいジュースです。ぜひ皆様に飲んでいただきたいです」。



### 就農のきっかけ

若い頃は本州で仕事に就いていましたが、実家の農業を継ぐために、30歳のときに地元の南富良野町に戻ってきました。両親は開拓としてこの地に入植し、私は2代目になります。就農当初、栽培面積は全部で15haほどでしたが、徐々に規模拡大を進めて、現在は80haほどの面積を管理しています。作業者は、私と26歳の息子です。ゆくゆくは息子に経営を任せることになるでしょうし、その時にスムーズに移譲ができるように準備をしていきたいと思います。

### 営農での心がけ

このあたりは朝晩の露が多いため、収穫時期は他の地域よりも遅く8月のお盆前になります。収穫のタイミングには気を使いますね。長雨などで収穫時期が遅れると、穂発芽などが発生してしまうし、収穫が早すぎても高水分で品質が劣ってしまう。他の作業も気にしながら、一番いいタイミングで収穫できるように、段取りを大切にしています。

### 赤さび病について

以前は赤さび病が気になることもありませんでしたし、防除も赤かび病を中心とした体系で同時防除を行っていました。それがここ数年、赤かび病防除を始める

## 赤さび病を長く抑える効果にびっくりしました

岩見沢市北村 岩見沢市農業試験圃  
西飯 弘行 様(64歳)

**プロフィール**  
●農業改良普及センター、JAいわみざわの職員を経て、2014年より岩見沢市農業試験圃に勤務。  
●農業試験圃の面積は2ha。5名の職員が勤務し、水稲、小麦をはじめ、岩見沢地域の様々な作物に関する試験を実施。

### 経歴と岩見沢市農業試験圃について

もともと農業改良普及センターで働いていましたが、後に岩見沢市の農協に転職し、畑作物を中心とした営農指導に携わっていました。6年前に農協を退職してからは岩見沢市農業試験圃で農業技術専門員として勤務しています。試験圃は市町村合併前の旧北村時代の1990年に設立されました。主に岩見沢地域で生産されている作物を対象に、品種比較、新しい農業資材や技術を活用した栽培法の試験地としての役割を担っています。

### SNSで情報発信

私たちの試験地ではSNSを活用し、活動内容や試験結果などの情報を発信していますが、閲覧した生産者さんから「実際に試験地を見学したい」という依頼を多くいただくようになりました。生産者の方々は様々な技術をお持ちで、自分の勉強にもなります。



### 赤さび病について

空知管内では数年前より、きたほなみ、キタノカオリなどの秋まき小麦で赤さび病の発生が目立つようになりました。特に製パン性に優れるキタノカオリでの被害

## 赤さび病への効果はとても良かったです。病気の発生もほとんどありませんでした

赤平市住吉町  
宮井 学 様(49歳)

**プロフィール**  
●2006年に兼業から専業に転向  
●主な栽培作物：小麦(秋まき：5ha、春播き：5ha)、大豆(17ha)、水稲(5ha)、菜種(1ha)  
●小麦の栽培品種：秋まき：キタノカオリ、春まき：ハルユタカ

### 就農のきっかけ

実家はこの地で代々農業を営んでいました。私は始めは会社に勤めながら実家の仕事を兼業という形で手伝っていましたが、35歳の頃に専業農家に転向しました。小麦は秋まきと春まき、それぞれ5haほどを作付しています。春まき小麦では雪が降る前には種する「初冬まき」を、15年ほど前から取り入れています。

### 営農での心がけ

私のところでは一人で管理をしているので、作業効率に繋がる技術は積極的に取り入れていこうと思っています。防除作業では今年からガイダンスシステムを使い始めました。作物の管理もやりやすくなりましたし、やっぱり便利です。自動操舵も今年の秋に導入して、来年から使い始める予定です。

### 赤さび病について

私が就農した頃、赤さび病はそれほど問題視する病害ではありませんでした。それが、5年ほど前から発生が目立つようになりました。特にキタノカオリでの被害が大きく、一度発生するとまん延して止まらないんです。当時、別の薬剤での防除を試してみましたが、抑えることができない。手が付けられないという感じで頭を抱えました。



は大きかったです。空知はキタノカオリの主産地で、採取圃も多々ありますから、赤さび病対策をしっかりと行わないと品種の存続も危うくなってしまふ。そのような中、赤さび病の防除剤としてイントレックスフロアブルを紹介いただき、試験体系に組み入れました。

### イントレックスフロアブルの効果

赤さび病の発生初期の止葉期にイントレックスフロアブルを使用しましたが、薬液がかかったところは長くしっかり赤さび病を抑えて、その効果にびっくりしました。持続期間が長いという薬剤の特性を活かすために、来年の試験体系では止葉期より前、5月の連休明け頃の散布を計画しています。そうすることで、より高い防除効果が得られるのではないかと予測しています。イントレックスフロアブルには今後も赤さび病の基幹剤として期待しています。

**取材メモ** キタノカオリは空知に導入されたときから関わり、思い入れも人一倍と話す西飯さん。「キタノカオリは栽培が難しい品種ですが、鮮やかな黄色味を帯びた粉色や、甘い香りなどの特長に優れた品種です。この小麦で作られたパンを楽しみにしている方が全国に大勢いらっしゃいますし、これからもその方たちの期待に、産地の一員として応えていきたいですね。」



### イントレックスフロアブルの効果

そのような状況の中、普及センターからイントレックスフロアブルを紹介してもらい、昨年初めて使ってみました。効果はとても良かったです。赤さび病の発生もほとんどゼロに近くなりました。秋まき小麦での赤さび病の被害は大きかったのですが、本当に助かりましたね。今年も止葉が出る前に、倒伏防止用のサイコセルPROと一緒に散布しました。来年も同じ時期の散布を予定しています。



**取材メモ** 滝川市・赤平市は日本一の菜種の産地ですが、宮井さんが所属する水稲グループでは、地域資源である菜の花を水稲の肥料に活用しています。「肥料にしているのは菜種から油を搾り取った後に残る粕です。菜種粕を入れた水田で獲れたお米は「菜の花のめくみ米」というブランドで販売をしています。精米タンパク値がとて低くて美味しく、自慢の一品です」と、笑顔で教えてくれました。

